

有配偶女性の自尊感情

松岡英子 ○小倉佐知子 (信州大)

【目的】有配偶女性が自分の生き方を大切にしていく上で、自尊感情は大きな影響力をもつと考えられる。本研究では夫婦の社会的属性および妻の生活や意識が自尊感情とどのような関係にあるかを検討した上で、有配偶女性の自尊感情を規定する要因について明らかにする。

【方法】自尊感情は、Rosenberg のスケールを参考にして、自分には長所がたくさんあると思う、自分自身に対して肯定的であると思う、などの 8 項目を加算尺度として用いた。影響要因として、夫婦の社会的属性(12 項目)、妻の意識(自己優先意識、伝統的家意識、妻アイデンティティーなど)、家庭での出来事、夫婦生活と社会活動(夫の家事参加、夫婦の情緒的サポート、活動・集会への参加)などを取り上げた。

【結果】有配偶女性の自尊感情の Chronbach's α は .74 であった。自尊感情への社会的属性の影響を見ると、妻の学歴が高い(短大卒業以上のもの)ほど、妻の収入や世帯の収入が多いほど自尊感情の得点が高くなっており、妻の職業や夫の社会的属性は有意な効果を示さなかった。また、自己優先意識(「自分だけの時間を確保するべきだ」などの 5 項目の加算尺度)が強いほど、家庭生活におけるストレスとなるような出来事が少ないほど、自尊感情が高い傾向にある。さらに夫婦相互の情緒的サポート(相互援助、相互理解などの 12 項目の加算尺度)が多いほど、妻の自尊感情が高いことが明らかになった。